| 授業科目名 | 産褥期・新生児のアセスメントとケア<br>*Postpartum/Newborn Assessment and Care* | | 担当教員 | 石山さゆり | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開講年次 | 1年通年 | セメスター | 1・2 | 時間数(単位数) | 30（2） |
| 必修選択 | 専攻領域必修 | 授業形態 | 講義 | 使用教室 | |
| 授業の目的 | 産後の母体と新生児の経過が正常（生理的な変化）であるか、また、逸脱・異常およびハイリスク状態の徴候がないかをアセスメントし、褥婦と新生児に対して適切なケアを選択し、親として自立が図れるよう家族を含めた健康教育（個別・集団、訪問による指導を含む）を行うために必要な能力を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | 1．正常な経過をたどる褥婦と新生児および家族に対するケアの原則について説明できる<br>2．特別なケアを必要とする褥婦と新生児およびその家族のケアについて理解できる<br>3．正常な経過をたどる褥婦と新生児に対する助産過程の展開ができる<br>4．産褥期に必要不可欠な沐浴指導と退院指導についての保健指導案を作成できる<br>5．母乳育児支援についての理解を深め、正常経過をたどる褥婦への支援方法が理解できる | | | | |
| 授業計画 | 1回　正常な経過をたどる褥婦と新生児および家族に対するケア、助産師の役割<br>2回　正常経過からの逸脱の可能性の診断とケア：<br>子宮復古不全、産褥熱、血腫、血栓症、排尿困難・尿失禁　など<br>3回　合併妊娠の産褥管理：<br>糖尿病、妊娠高血圧症候群、精神疾患など<br>4回　母乳育児支援①：支援に必要な知識およびアセスメント<br>5回　母乳育児支援②：ポジショニング、ラッチ・オン、搾乳、乳房の自己管理<br>6回　母乳育児支援③：乳房トラブルや母乳トラブルに対するケア、断乳や卒乳のケア<br>7回　産褥期の心理的・社会的問題の診断とケア：<br>出産体験の自己評価、マタニティブルーズ、育児不安、産後うつ病<br>8回　低出生体重児を出産した母児へのケア<br>9回　親役割獲得への支援：育児技術の指導、沐浴指導案の検討　＜発表と検討＞<br>10回　セルフケア能力を高めるケア：退院指導案の検討　＜発表と検討＞<br>11回　事例（初産・経産）を用いた助産過程の展開（産後1～2日）　＜事例検討＞<br>12回　事例（初産・経産）を用いた助産過程の展開（産後3～4日）　＜事例検討＞<br>13回　事例（初産・経産）を用いた助産過程の展開（退院後）　＜事例検討＞<br>14回　帝王切開術を受ける対象へのケア<br>15回　児を亡くした親へのケア、障害のある子どもを育てる親へのケア | | | | |
| 学習方法 | 妊娠・分娩を視野に入れた産褥に至る事例を用いた助産過程の展開を行う。授業では各自の展開内容をもとに検討する。また臨地実習での活用に直結する助産計画及び保健指導案を作成する。以上を通して、褥婦・新生児に対する助産ケアに必要なアセスメント力および実践力の強化を図る。 | | | | |
| オフィスアワー | 木曜日の昼休み、もしくは事前にメール（s-ishiyama@jrckicn.ac.jp：石山）にてアポイントを取って下さい。 | | | | |
| テキスト | 我部山キヨ子他：助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期（第5版）．東京，医学書院，2013.<br>横尾京子他：助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期　第5版．東京，医学書院，2013.<br>荒木勤：最新産科学　異常編（第22版）．東京，文光堂，2012.<br>日本ラクテーション・コンサルタント協会：母乳育児支援スタンダード．医学書院，2015. | | | | |
| 参考文献 | BFHI 2009 翻訳編集委員会:赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド　ベーシック・コース「母乳育児成功のための10カ条」の実践，東京，医学書院，2009.<br>吉田敬子他:産後の母親と家族のメンタルヘルスー自己記入式質問票を活用した育児支援マニュアル　第4版．東京，母子保健事業団，2012.<br>中野仁雄監:心理的問題をもつ妊産褥婦のケア．東京，医学書院，2005.<br>仁志田博司：新生児学入門　第4版．東京，医学書院，2012. | | | | |
| 評価方法 | 保健指導案[沐浴指導/退院指導]作成（20%）、助産過程展開（20%）、筆記試験（60%） | | | | |